



～自分で考え 友達と一緒に活動し 振り返りのできる子～

学校だより 11月

令和4年10月31日

荒川区立

峡田小学校

校長 津田 利枝

「共感」を通して育む

生活指導主幹 飯塚 宏美

10月8日(土)の運動会には、多くの保護者の皆様にご来校いただきありがとうございました。運動会という大きな行事を通して、峡田小の子供たちは大きく成長しました。学年の種目を精一杯やりきることはもちろん、仲間と協力すること、負けそうになっても最後まであきらめないこと、負けても相手に拍手を送ることができること、他の学年の競技を精一杯応援すること、5・6年生は係活動を通して運動会を支えていくこと、6年生の最高学年としての姿に憧れを抱くこと・・・数えきれないほどの学びと成長があったと思います。

お子さんが、ご家庭で運動会練習の様子や当日のことをいろいろ話したかと思います。しかしながら、お子さんの話を聞く時、晩ご飯を作りながら・・・、スマートフォンを見ながら・・・と、話を聞くことが片手間になっているということはありませんか。相手の話を聞く時に「うなずき」「相づち」など大切なことはたくさんありますが、一番大切なことは何でしょうか。それは同じ感情を共有する「共感」だそうです。共感しながら話を聞くと、子供は、「自分の気持ちがわかってもらえた」と感じて聞き手への信頼感が高まり「この人にはなんでも話せる。自分の本音を話していいんだ」となって、続きが話しやすくなり、心の内にある不満も吐き出しやすくなるそうです。

今年は、校内研究(キャリア教育の推進)とのかかわりもあり、全クラスで「運動会ノート」に取り組みました。毎日めあてをもち、そのめあてを意識して練習し、振り返りをするものです。前の時間と比べてがんばっていたことや成長したことを担任が見取り、コメントを記入します。これを運動会当日まで続けました。ただ「がんばっていたね」「ダンスが上手になったね」と一律のコメントではなく、一人ひとりのがんばりや成長に目を向けてコメントを書きました。つまり子供たちの思いに対する「共感」を大切にしています。これは「キャリア・カウンセリング」という手法で、今年度峡田小学校が特に大切にしている取り組みです。「キャリア・カウンセリング」では、発達過程にある一人一人の子どもたちが、個人差や特性を生かして、学校生活における様々な体験を前向きに受け止め、日々の生活で遭遇する課題や問題を積極的・建設的に解決していくことを通して、問題対処の力や態度を発達させ、自立的に生きていけるように支援することを目指しています。

峡田小学校では、何か問題が起こってから厳しく指導するというスタイルではなく、日々の教師と子供との信頼関係づくり・子供達同士のよりよい関係づくり・温かい雰囲気クラスづくりに力を入れています。日々の土台づくりが、安心・安全の学校づくりにつながると考えているからです。峡田小学校の保護者の皆様は、日頃から学校の方針に協力して下さり、お子様を大切に下さっています。また、何か心配なことがあれば、必ず担任や学年主任を通じて相談して下さっています。家庭と学校と一緒に子供たちを育てていけることほど、子供達のためになることはありません。

さて、11月には3年に1度の音楽会が予定されています。音楽会では「音楽会ノート」に取り組み、運動会と同じく「共感」「キャリア・カウンセリング」を大切に参ります。児童一人一人とよりコミュニケーションを図り、子供たちの成長のために、今後も家庭と学校と地域が連携し、子供たちを育てていきたいと思っております。また、家読・峡田っ子週間の取り組み・自習学習の取り組みへのご協力もありがとうございます。今後ともご協力・ご支援よろしくお願ひいたします。